



セミナーレポート

自主研究会セミナー

「温泉利用型の高齢者福祉・医療施設の研究」

2006年2月15日（水） 於：小山田記念温泉病院（三重県四日市市）

■ 小山田記念温泉病院 施設視察

住所：三重県四日市市山田町5538-1



四日市病院の位置

開院：昭和61年11月15日

病床数：一般病棟 170床

療養病棟 112床

介護病棟 108床

合計 390床

小山田記念病院のほか特別養護老人ホーム、老人保健施設、軽費老人ホーム、デイサービスセンター、グループホームなどの社会福祉施設が併設されており、温泉が湧出した昭和61年以来、高齢者、障害者を始めとして、1,500名余りの方が温泉を利用できるようになっている。また、地域との交流施設であるピア小山田ホールがあり、地域に暮らす方のため、温泉を利用したりリハビリテーション、療養、あるいは地域交流について考え、研究・実践されている。構内の2箇所に温泉旅館にも負けない露天風呂がつけられたり、介護施設利用者のための足湯がつけられたりしており、今までにない新しい発想の温泉利用である。

従来の温泉療養は、治療面が強調されていたが、この施設は、心身の安らぎを前面にだして、従来の温泉病院のイメージを超えた非常に明るい、温泉旅館における楽しさを取り入れた新しいタイプの施設である。

より深い、地域と医療の結びつきを

高齢化社会の対応をめざす福祉の里「小山田」に位置する当院は、医療法人社団主体会の理念をもとに、より確かな力づくにするために、ぐらに根づいた地域医療に取組んでいます。小山田屈指の老人医療・リハビリテーションの拠り所として、外県の方をはじめ、在宅療養の方への訪問看護、訪問リハビリなど、幅広い医療サービスを行い、地域に密着した、医療の充実と向上をめざしています。



**小山田記念温泉病院**  
介護老人保健施設 みすの郷

小山田グループホーム  
小山田特別養護老人ホーム  
第二小山田特別養護老人ホーム  
小山田温泉地域交流ホーム  
ピア小山田ホール  
小山田ケアハウス

小山田特別養護老人ホーム(B型)青山の里  
四日市福祉専門学校  
小山田老人保健施設  
小山田身障者療養施設 小山田苑  
小山田ティ・サービスセンター  
第二小山田軽費老人ホーム(A型)青山の里

主体会の理念

1. 患者様のための主体的な医療。
2. 医療は福祉の原点。
3. 患者様に信頼され愛される病院。
4. 健康増進からターミナル・ケアまでの生涯医療への充実。
5. 地域医療の推進。

## ■ 講演1 「小山田記念温泉病院におけるこれまでの研究」

医療法人社団主体会 理事長 川村 陽一

温泉にはそれが持つ物理的作用以外にも、心を癒してくれる精神・心理的作用があり、温泉保養の主役を演じていると言えるかも知れない。

高齢者のための温泉利用型福祉・医療施設では高齢者の社会復帰のためのリハビリ効果がどのようにしてもたらされるのか。具体的な提示を通して解説。

### <プロフィール>

昭和6年8月生まれ

昭和31年 名古屋大学医学部卒業 昭和41年 厚生連松代病院副院長

昭和46年 医療法人社団主体会川村病院院長就任

昭和62年 医療法人社団主体会理事長・社会福祉法人青山里会理事長

平成4年 みえ川村老健施設長、四日市福祉専門学校長

平成6年 社会福祉法人青山里会 ケアハウス常磐施設長

平成13年 第66回日本温泉気候物理医学会大会長

「新生期を向えた温泉医学への期待」(四日市市)を行う。

平成 16 年 日本健康開発財団による温泉入浴指導員養成講師

【公職】日本温泉気候物理医学会認定医、三重県老人保険施設協会会長(前)

【表彰】平成 15 年厚生労働大臣賞,全国老健協会会長賞,三重県知事賞受賞

平成 17 年温泉研究による環境大臣功労賞受賞

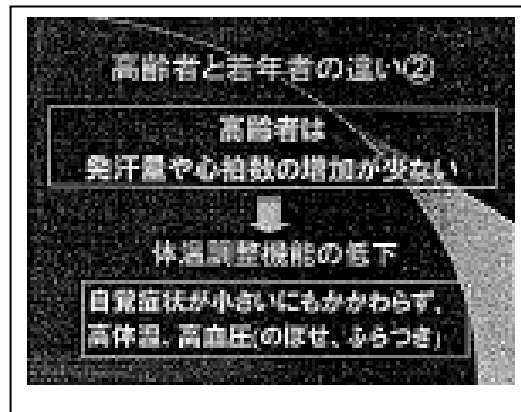
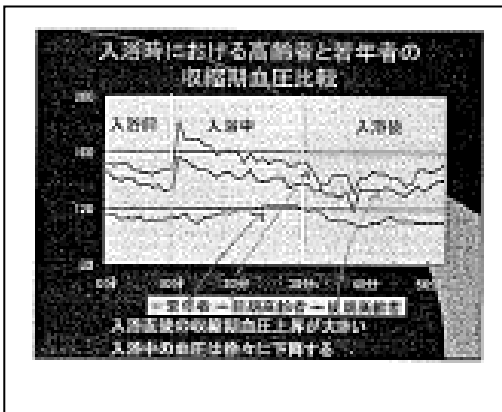
## 1. 温泉療法の基本方針

- ① 高齢者リハビリテーションに対し積極的に利用
- ② 高齢者に多い神経・筋・骨・関節疾患治療に心地よく副作用の少ない温泉利用を促進
- ③ 高齢者のQOL向上に温泉を利用
- ④ 地域リハビリテーションに温泉を利用

## 2. 研究活動

- ① 入浴時における高齢者の循環動態

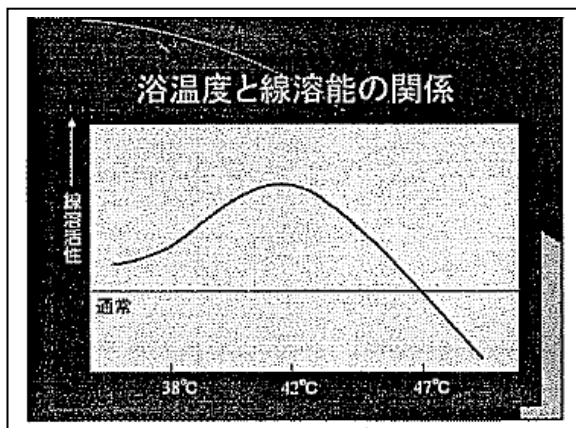
高齢者と若年者との収縮期における血圧比較、発汗量の違いなど



- ② がん術後患者における温泉浴の利用

温泉浴実施群と非実施群との比較 免疫学的には差がないが全身状態では有意に改善

- ③ 入浴温度と線溶能との関係




④ 脳血管障害患者に対する水中機能訓練の効果確認

脳血管障害患者に対する水中機能訓練

	急性期	回復期	維持期
ADL自立	△	◎	◎
ADL半介助	×	○	◎
ADL全介助	×	○	△

◎：適応があると思われる実際に行われている  
 ○：適応があると思われるがあまり行われていない  
 △：適応はないと思われる  
 ×：適応があるのかわからないか不明



⑤ 老年痴呆に対する夜間温泉入浴

10名の被験者について、睡眠、興奮、徘徊、攻撃性について改善がみられた。

⑥ 精神心理的作用 地域交流ホームでのアンケート調査及びデイサービス・デイケアでのアンケートサービス

デイサービス・デイケアでのアンケート調査

入浴頻度と健康指標の改善率

	週1回	週2回
疼痛	61%	78% ↑
睡眠	35%	44% ↑
食欲	20%	27% ↑

これらの研究成果は、温泉が両面でも大きな力を発揮していることをものごとがたっている。温泉資源の湧出量にもよるが、このようなタイプの温泉利用は将来における温泉利用のあり方を示すものとして注目に値する。

## ■ 講演2 「介護予防の最新動向と健康増進支援ビジネスの視点」

ウエルネス・フロンティア株式会社 代表取締役 大木香一郎

介護予防制度のスキームとその運用ガイドラインについて解説し、運用主体の自治体動向と新サービスを受託する関連企業の動向から、「介護予防」事業のビジネス視点を提言すると共に、介護予防のみならず「高齢者の自立支援」ビジネスの創出についても提言。

### <プロフィール>

1948年12月生まれ 鹿児島県出身 国立鹿児島高専卒

1969年 松下電工株式会社に入社。以来、住宅設備機器及び電器商品の企画開発及びマーケティング企画を担当。主として新事業の創出を担当する。担当した新事業は「高齢者・介護事業(ナイスエイジフリー事業)」及び「健康情報サービス」の立ち上げ推進。2004年同社を円満退社し、有限会社ウエルネス・ビジネス研究所設立。2005年7月より株式会社に改組し、社名を変更(本社:大阪)。ヘルスケア・シニアビジネスのプラットフォーム会社として、ビジネス創出の産官学のコーディネート活動を推進。「健康の産業化」の活動に注力。

### 1. 介護予防制度の最新動向

#### 1) 介護予防制度が生まれた背景

- ・健康寿命の延伸ニーズ
- ・軽度の介護保険認定者の増加

#### 2) 介護予防制度の概要と留意点

- ・介護度が進行しない新サービスの導入
- ・サービス対象者(事業の種類)は、「地域支援事業」と「新予防給付」
- ・運営主体と実施場所
- ・サービス内容は一定期間で評価される

#### 3) サービスメニューの動向

- ・「運動機能向上」
- ・「低栄養改善」
- ・「口腔ケア」
- ・介護施設の動向

#### 4) 提言

- ・特定高齢者のスクーリングと評価の新システム(開発中)
- ・国の制度に頼らないビジネス視点を

### 2. 高齢者の自立支援の視点

#### 1) 高齢者を自立させる視点

- ・ユニバーサルデザイン
- ・ホームヘルスケア
- ・モビリティ
- ・コミュニケーション

- 2) 欧米との生活習慣（文化）の差
  - 3) みまもりのシステム
  - 4) その他
3. ヘルスケア市場のビジネス視点
    - 1) 健康増進支援の考え方
    - 2) 健康副産物論
    - 3) 健康システム
    - 4) 健康フロンティア戦略
      - ・メタボリックシンドローム
      - ・保険者機能の強化
      - ・企業の保健事業
  4. ヘルスケア市場のビジネス・キーワード
    - 1) メディカル・フィットネス
    - 2) ターゲットは4つ
    - 3) エビデンスが大事
    - 4) コラボレーションが大事
    - 5) プラットホーム
  5. まとめ
    - ・「動機付け」「習慣化」
    - ・副産物としての「健康コンテンツ」
    - ・「生活者」「専門家」「保険者」「行政」
    - ・コラボレーションのスタンス

小山田記念温泉病院 <http://www.syutaiikai.jp/htm-oya/top.htm>

ウエルネス・フロンティア株式会社 <http://www.well-frontier.co.jp/>

(宿泊) オテル・ド・マロニエ湯の山温泉 <http://marronnier.info/yunoyama/>

以上